# 樹脂管漏水・配管路探索機　Ｄ３０５

取扱説明書

本探索機をご利用になる前に、取扱説明書をよくお読みになり内容を充分ご理解頂いた上でご使用下さい。
間違ったご理解によるご利用は怪我、もしくは死亡事故につながる恐れがありますので、ご注意ください。

株式会社グッドマン

本探索機をご利用になる前に、取扱説明書をよく御読みになり内容を充分ご理解頂いた上でご使用下さい。
間違ったご理解によるご利用は怪我、もしくは死亡事故になる恐れがありますので、ご注意ください。

## 安全にご使用いただくために

絵表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。
また、警告・注意表示以外でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってご使用下さい。

**危険**　この表示を無視して、誤った取扱をすると、死亡または重傷を負う危険が生じます。

**警告**　この表示を無視して、誤った取扱をすると、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定されます。

**注意**　この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が損害を負う可能性が想定される内容及び物的損傷の発生が想定されま

### ご 注 意

●送信線と接地線を接続する際は必ず発信機の電源がＯＦＦの状態で行って下さい。
●発信機と受信機の充電は必ず付属の専用充電器をご利用ください。
●送信機の誘導波は活線側と接地側の両方から発信されます。

◎　誤った取扱をすると死亡または重傷を負う危険があります。

【１】 樹脂管漏水・配管路探索機Ｄ３０５の特長

- 全長 500m・深さ 4m までの非金属埋設配管[塩ビ管・ポリ管・等]の漏水箇所と埋設場所を地表から高精度に探索します。
- 埋設配管(全管種)の配管路が検出できます。
- 埋設管の埋設深度を測ることができます。

【2】セット内容

① 発信機内蔵防塵・防水ケース
② 受信機
③ 受信機充電用アダプター
④ 発信器充電用コード
⑤ アース棒
⑥ ワニロクリップ付コード
⑦ ２５ｍドラム式延長コード
⑧ バイスクリップ
⑨ 設置用磁石
⑩ ワニロクリップ（大）

【3】製品仕様

発信機(ｹｰｽ内蔵型)

| | |
|---|---|
| 電源 | 12V シールドバッテリー |
| 作動時間 | 約 6 時間 |
| 送信出力 | 30W |
| 作動温度 | -15~50℃ |
| 電池残量表示 | 電圧計に表示 |
| 寸法/重量 | |
| 490×410×200/11kg | |

受信機

| | |
|---|---|
| 電源 | 単三ｱﾙｶﾘ乾電池×４もしくはﾆｯｹﾙ水素充電池×４ |
| 作動時間 | 約２０時間 |
| 作動温度 | -20~60℃ |
| 寸法/重量 | |
| 790(収納時 530)×220×100mm/700g | |

【4】取扱説明

## 1，発信機の接続方法

①送信機の主電源がオフになっている事を確認してプラス端子（赤）に付属のワニロクリップを差し込み目的管の金属部分に接続します。
②送信機のマイナス端子（黒）に接続コードを差し込み、単独の対地接続（アース）を延長コードドラム等を使い目的管から１０m以上離れた場所の標識などの単独の金属体に接続します。

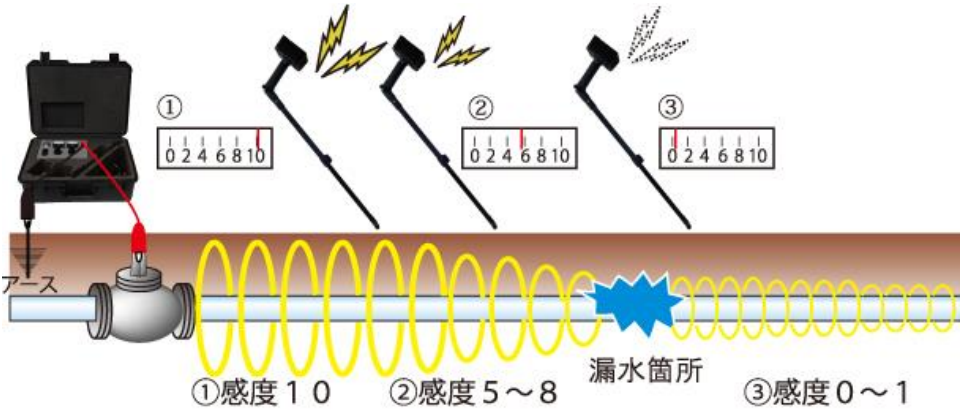
注１：ガードレール・フェンス等は多重アースのためアースには不適切です
注２：単独アースがとれない場合は付属のアース棒に接続し濡れた地面にさしてください

③送信機の主電源を入れ出力調整で出力メーターの指針を発信機からの距離に応じて適宜設定します。

注３：受信機側のメーターがどの距離でもできる限り８～１０の間になるよう発信機の出力を調整します

④インピーダンス整合ダイヤルを使用して③で合わせた出力メーターが最も強く表示される位置に調整します。

注目：プラス端子(赤)を接続する金属部分が水や土に触れていない状態にすると、送信出力が格段に向上します。
(例：バルブが水没・埋没している場合は周囲の水・土を取り除いて金属部を隔離してください)




**警告**

送信線と接地線を接続する際は必ず電源がオフになっている事を確認してから行って下さい。
探索後または探索途中に接続されている送信線や接地線を接続箇所から外す際には必ず発信機の電源をオフにしてから行って下さい。

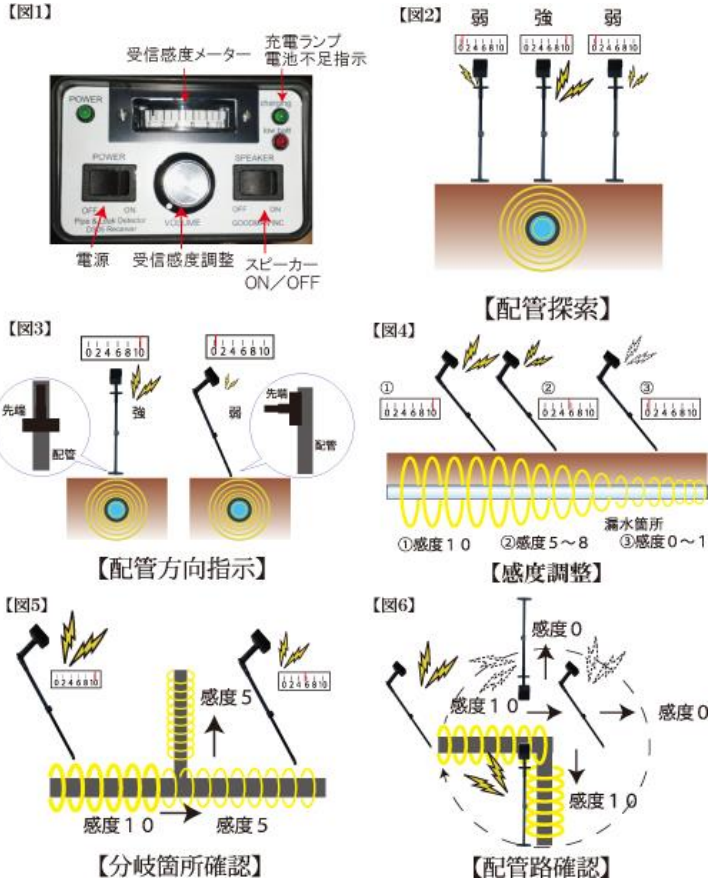
## 2，配管路の探索方法

(1) 発信機を接続し、出力調整ボリュームを距離に応じて適宜調整します。
※探索開始時は極力少ない出力で探索をはじめて開始して下さい。
※発信機のメーター指示は関係ありません。

(2) 受信機の感度ボリュームを回し、メーターが常に《8～10》に位置するよう調整します。(図１)
※受信機のＴ字アンテナ部が配管の直角方向の時最大感度を示します。(図２)

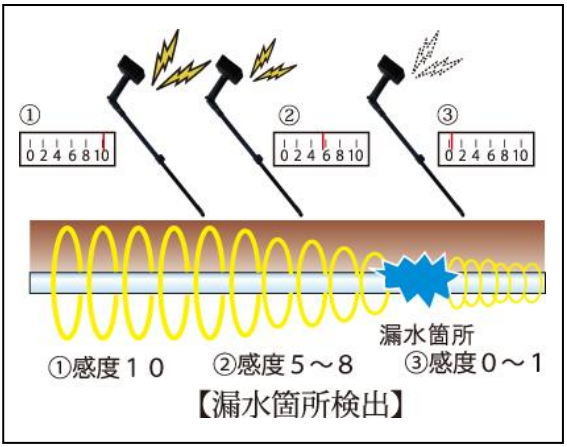
(3) 信号音及びメーターの指針が最大の地点で配管の直上を示します。(図３)
※探索信号は発信機から遠ざかるほど減衰します。この場合、受信機の感度調整ボリュームを上げるか、発信機の出力調整ボリュームを上げることで適正な探索信号の保持を行ってください。(図４)
※発信機から半径(5～１０m)以内は発信機本体からの影響を受けるため配管探索に支障をきたします。この場合、発信機の出力を下げるか、他の接続地点に移動してください。

(4) 配管路上で信号の受信が突然弱まった時には分岐・曲がり箇所などの可能性があるので、探索信号が弱まった地点を中心に受信機を 360℃回して配管経路の確認を行います。(図５・図６)



## 3, 漏水箇所の検出

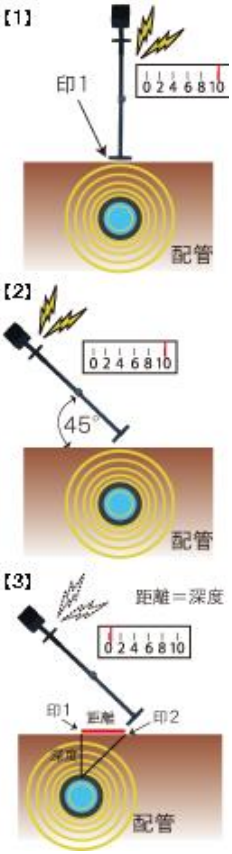
⑴ 漏水が疑われる配管に発信機をセットします。
⑵ 埋設配管の埋設ラインを地表にマークしながら探索します。
⑶ メーターの指針が急激に下降した地点に『印』をします。
⑷ 『印』の周辺の埋設ライン上を、再度ゆっくりと探索し最も顕著にメーター指針の下降する場所が漏水の可能性が高い個所となります。




⑴ 『印 1』に T 字アンテナ部を近づけたまま、受信機を 45° 傾けます。
※信号音が減少しますので受信機の感度調整ボリュームを若干高めにセットします。

⑵ そのままの角度を保ちながら配管のラインと直角方向にゆっくりと T 字アンテナ部を前進させます。この時再び信号音が聞こえ始めた地点に『印 2』をします。

⑶ 『印 1』と『印 2』の間の距離が埋設ケーブルの深度と等しくなります。



## 【5】　メンテナンス

**⚠　警告！**

電池ケースを開ける前に必ずリード線を回線からはずし電源を切ってください。この警告を無視して誤った取扱をすると、重傷もしくは死亡事故を招く恐れがあります。

**●受信機充電方法（新品出荷時は、充電池内蔵しています）**

1．付属の充電アダプターを受信機の端子部に接続します
2．プラグをコンセントに差し充電を開始します。

※過放電を避けるため、約１ヶ月に１度充電を行ってください。（空容量での長期保管は避けてください。）

**●受信機電池交換方法**

1．本体取手部分の電池カバーのねじをはずします。☞[図 1]
　カバーをはずします。☞[図 2]
2．電池を交換します。(極性に注意してください)
3．電池カバーとねじを取付けます。☞[図 3]

**⚠　注意！**

乾電池使用時は、絶対に充電をしないでください。
充電池を充電する際は必ず付属の専用充電器をご使用ください。

[図 1]

[図 2]

[図 3]

●送信機充電方法

1．付属の充電用コードを送信機の端子に接続します
2．プラグをコンセントに差し充電を開始します。
　１２Ｖ以下での使用は、バッテリー劣化に繋がります。ご使用を避け速やかに充電をして下さい。
　約１４Ｖで満充電となります。

※過放電を避けるため、約１ヶ月に１度充電を行ってください。(空容量での長期保管はお避け下さい。)

## クリーニング

●　定期的に、湿らせた布で本機を拭いて下さい。研磨剤や溶剤は使用しないで下さい。

**室内/野外での使用について：Ｄ３０５**は雨の中で使用したり、直射日光が当たる場所に放置したりしないでください。

# 保 証 書

| | |
|---|---|
| ※　御使用者<br>住　所<br>氏　名 | |
| 樹脂管漏水･配管路探索機　Ｄ３０５ | 品　番 |
| 保証期間　　年　　月より１ヶ年 | |

お願い　本保証書は、アフターサービスの際必要となります。
お手数でも※印箇所にご記入の上本機の最終御使用者のお手許に保管してください。

## 保証規定

1. 保証期間中に正常な使用状態で、万一故障等が生じました場合は、保証規定に基づき無償で修理いたします。
2. 本保証書は、日本国内でのみ有効です。
3. 保証書の再発行はいたしません。
4. 下記事項に該当する場合は、無償修理の対象から除外致します。
   a. 不適当な取扱い使用による故障
   b. 設計仕様条件等を超えた取扱い、使用または保管による故障
   c. 当社もしくは当社が委託した者以外の改造又は修理に起因する故障
   d. その他当社の責任とみなされない故障

販売店名

輸入発売元　株式会社 グッドマン
〒236-0037 神奈川県横浜市金沢区六浦東 2-3-3
TEL 045-701-5680
FAX 045-701-4302